

2024 年度全国大会（北九州市）へようこそ

内田 晃 北九州市立大学（九州支部長）

1. はじめに

2024 年度全国大会（第 59 回学術研究論文発表会）は 11 月 1 日から 3 日間、北九州国際会議場で開催します。九州支部の所管で開催するのは 2015 年の宮崎市以来 10 年ぶり、北九州市での開催は初となります。実行委員会を代表して、大会前の誌面をお借りする形で歓迎のご挨拶をさせていただきます。

2. 課題先進都市である北九州市

北九州市は 1963 年に門司、小倉、若松、八幡、戸畑の五市が対等合併して成立した世界でも類を見ない都市です。1901 年に操業開始した官営八幡製鐵所を中心に工業の街として戦後の高度経済成長を牽引し、1979 年には人口約 107 万人とピークを迎えました。しかしその後、エネルギー政策の転換による工場再編等で社会減が進み、2024 年の推計人口は約 91 万人と最盛期と比較すると 15 万人以上減少しており、高齢化率も 31.2%（2020 年国勢調査）と全国の政令指定都市で最も高くなっています。このように北九州市は全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進んだ課題先進都市とも言えます。

3. 大会前後に是非訪れてほしい見どころ

(1) 2 種類のエクスカージョン（大会初日：11/1）

1 つ目は「八幡製鐵所関連の産業遺産」です。ユネスコ世界文化遺産に指定されている「日本事務所」は一般公開されていないため眺望スペースからの見学にはなりますが、製鐵発祥の地である東田地区のまち歩き、市指定有形文化財である旧安川邸などの見学をして頂きます。

2 つ目は「小倉都心地区リノベーションまちづくり」です。北九州市は 2010 年度に「小倉家守構想」を策定し、小倉都心地区において遊休不動産物件を中心に様々なリノベーションの取り組みを進めています。今回はまち歩きをしながら旦過市場、Tanga Table、船場広場などをご見学頂きます。



写真 1 若戸渡船と若戸大橋

(2) 建築・土木遺産

私がお奨めするのは市内の建築・土木遺産を巡る旅です。大会会場となる北九州国際会議場及び隣接する西日本総合展示場は故・磯崎新氏の設計です。氏は北九州市内に多くの作品を残しており、北九州市立美術館（1974 年）、北九州市中央図書館（1975 年）は竣工後 40 年経っていますが、現在でも市民から愛されている現役の公共施設です。小倉都心の中央図書館、戸畑区の美術館を巡った後は、戸畑渡場から洞海湾を渡る若戸渡船（乗船料：100 円）で若松に渡ってください。約 3 分の短いクルーズですが頭上には東洋一のつり橋と評された深紅の若戸大橋（竣工：1962 年）を望めます。若松渡場から JR 若松駅に至る若松南海岸通りは石炭時代の繁栄を偲ばせる旧古河鋳業若松ビル、上野ビル、旧ごんぞう小屋など大正レトロの街並みを楽しめます。時間が許せば「日本新三大夜景」に認定された皿倉山からの百万ドルの夜景をご覧ください。きっと満足な一日になると思います。

(3) 都心に立地するサッカースタジアム

大会会場の横にミクニワールドスタジアムがあります。新幹線駅から最も近い J リーグの本拠地であり、スタンドが海に面している唯一無二のスタジアムです。ギラヴァンツ北九州 vs アスルクラロ沼津の J3 公式戦が 11 月 2 日の 14 時キックオフで開催されます。大会期間中のため、あまり大々的には宣伝できませんが、都市の賑わいに寄与する都心立地型のスタジアムの様子を是非ご体感ください。

4. 最後に

玄界灘で採れる魚介類、近郊で栽培された果物や野菜も美味しい季節になります。北九州市のソウルフードである小倉焼うどん、戸畑ちゃんぽん、資さんうどんなどの B 級グルメも魅力満載です。大会実行委員会一同、皆様のご来北を心よりお待ちしております。



写真 2 ミクニワールドスタジアム